

筑後川遺産保存活用の推進プラン（４）軍の記憶 - 久留米の戦争遺跡を訪ねて -

【①ストーリー】

山川村(当時)には、幕末動乱期の国事殉難者を祀る招魂社が創建され、明治維新の近代化の中勃発した、佐賀の乱や西南戦争で命を落とした戦死者を祀る陸軍埋葬地も併設されました(山川招魂社エリア)。

明治22年(1889年)に全国で最も人口が少ない市として市制が施行された久留米市は、当時、市域は狭く、極めて厳しい経済状況に置かれていました。しかし、日清戦争後、古来より交通至便の地であった久留米市付近に、軍拡政策で陸軍の兵営が新設されるとの情報が伝わりました。久留米市は積極的に誘致運動を展開、その甲斐あって、明治30年(1897年)、市近郊の御井郡国分村(現在の国分町自衛隊駐屯地)に、陸軍第12師団歩兵第48連隊が移駐し、続いて歩兵第24旅団司令部が開庁、久留米衛戍病院も設置されました。さらに日露戦争後、久留米師団創設、陸軍特別大演習、久留米俘虜収容所の設置など、軍都化は加速し、久留米市は軍都として発展していきました。しかし、第2次世界大戦が激化した昭和20年(1945年)8月11日、久留米市街地は53機のB-24による空襲を受け、その約7割が焼失しました。そして8月15日に終戦、軍都としての役割に幕を閉じました。

終戦から約75年以上が経過した現在でも、市内には軍都の歴史を伝える遺構が多く残っています。特に現在の久留米競輪場付近には、戦意高揚や戦死者の追討のために建設された遥拝台や円形野外講堂、忠霊塔、陸軍橋、臨川台などが集中しています。また、久留米市を代表する産業となっているゴム産業は、第1次世界大戦に伴い国分町に開設されたドイツ兵俘虜収容所の捕虜による技術指導によって興隆したもので、軍都の歴史は今日の久留米市に深く息づいています。



【②構成する歴史遺産】

- 山川招魂社
- 陸軍埋葬地
- 爆弾三勇士之碑
- ビルマ派遣軍龍兵団工兵五十六連隊慰霊碑
- 大東亜戦慰霊碑
- 久留米工兵隊之跡碑
- 耕心園碑
- 久留米工兵隊正門跡
- 参道
- 放生池
- 陸軍橋
- ドイツ兵俘虜慰霊碑
- 忠霊塔
- 臨川台
- 円形野外講堂
- 遥拝台

【③課題】

時間の流れとともに軍の記憶が薄れていくことが懸念されます。

【④未来のストーリー】

軍の記憶を次世代に受け継いでいけるよう、人々と共有できる形で守るとともに、確かな情報を伝えていきます。多くの人々へ軍の記憶の定着を図り、日常生活のなかに軍都の歴史に関連するものを見つけ、生み出していきます。

取組の方向

- 軍の記憶の調査と保存
- 戦争遺産の指定・登録等の検討
- 戦争遺産活用事業の促進
- 軍都に関連して生まれた地場産業の紹介

【⑤体制】

(令和3年6月時点)

地域	市民	山川町、御井町、国分町、高良内町他
	市民団体	高良山観光ボランティアガイドの会
	事業者	
	関係機関	久留米競輪場
久留米市		文化財部局、産業振興部局ほか